

# 湯河原ロータリークラブ



## WEEKLY REPORT

### 奉仕を通じて平和を

第 2454回 例会  
平成24年7月20日(金)  
天候 雨  
合唱 奉仕の理想  
四つのテスト

会長 山本 明峰

幹事 石倉 幸久

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内  
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716  
例会場 静岡県熱海市泉 107 ニューウェルシティ湯河原  
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401  
例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

#### 会長挨拶

##### 「酔生夢死」

今週、17日に関東甲信越地方が梅雨明けしたとのことです。夏山好きにとっては「梅雨明け10日」というのは何か居ても立ってもいられなくなるような言葉でしょう。私も学生の頃は夏期休暇には山小屋でアルバイトをしていましたから、8月の盆休みまでは、それはもうてんやわんやの忙しさでした。暇になると、ほんの軽装で山小屋間を無料で行ったり来たりするの宿泊をさせてもらったのが良い思い出です。

いまではほとんど山行もしなくなりましたが、時々森林限界を抜けた稜線をザックを背負って悠々縦走しているような夢を見ることがあり、覚めてもまだ気持ちがざわついているような、そんな夢を見ると「ああ、また大雪や宮之浦や飯豊やアルプスを歩きたいなあ」と思ったりもするのですが、それだけありありとリアルな夢を見せられると、もうなかば実際に登ってきたようなものだという気もして、「別に改めて労力をかける事もないか」ということに落ち着きます。だいたいこの頃は、昔本当に体験した事なのか、それとも夢で見た事なのかの境がどうも曖昧になってきて、どうしようもないのです。

「酔生夢死」という言葉があります。酒に酔ったような、また夢を見ているような心地で、なすところもなくぼんやりと一生を終わること、というような、まあどう読んでもネガティブな言葉です。お釈迦様なら叱りつけるところでしょう。常に覚醒し、随所に生を全うするというのが、師の教えです。これが少し寒冷な中国に入ってきますと、先ずアルコールに対する戒律がルーズになってきます。また道教、特に荘子などの影響で、この世を夢の如きものと捉える視点が生まれます。死の恐怖を和らげるのには、はたしてどちらが有効なのでしょうか。少なくとも私は、「酔生夢死」という言葉にどうも惹かれてしまうこの頃です。

#### 幹事報告

##### ガバナー

1. 麻薬撲滅キャンペーン啓発資材の手配について  
回答期限 8月1日(水).
2. 会員数ならびに出席率報告のお願い  
回答期限 翌月15日

##### 報告事項

1. 国際ソフチスト湯河原及び立山ロータリークラブより  
50周年記念誌送付のお礼状が届きました。
2. ポスト7月20日号にて第9グループの  
新役員の氏名を掲載する予定です。
3. 地元新聞社2社から暑中見舞い広告のお願い
4. MOA美術館湯河原児童作品展後援のお願い
5. 湯河原温泉観光協会より納涼縁日協賛のお願い
6. 歓送迎会 7月27日(金) 18:00~  
場所: 和はな 会費 5,000円

#### スマイルBOX

##### 会員誕生日

7月13日 石田浩二君 7月22日 石川博君  
ご婦人誕生日 7月26日 小松雄成君  
石田浩二君 51歳の誕生日を迎えることが出来ました。  
佐藤泰文君・山本明峰君

暑かった盂蘭盆無事迎えました。  
お盆なもので吉例により全員スマイル

#### 本日のお客様

常盤恵子様 (ガールスカウト第9団)  
長田由美様 (ガールスカウト第9団)

出席報告	ゲスト 2名 ビジター 0名		
	会員 25名	欠席 1(1)名	出席率 100%
	前回の修正出席率 84.00%		前々回の修正出席率 100%

神奈川県が、受動喫煙防止条例を施行してから2年ばかり経ちますが、そもそも、東京都千代田区が全国に先だって過料徴収を含む路上喫煙禁止条例を実施して約10年が経ちます。最近、ある報道で「ippuku」というのを目にいたしましたので、紹介します。 [以下、情報はネットより]

そんな喫煙マナー促進のさきがけとなった千代田区に、2012年7月2日、日本初の有料喫煙所が3カ所、同時にオープンした。喫煙者への締め付けばかりが厳しくなり、受け皿のない現状から生まれた。

「ippuku」と名付けられたこの有料喫煙所、1回の使用料は50円だ。これが値段が高いのか安いのかは後述するとして、タバコメーカーなどが展開する無料喫煙所の存在を考えると抵抗感を持つ喫煙者もいるのではないだろうか。

果たしてビジネスとして有料喫煙所に勝算はあるのか？

たしかに喫煙者のためのスペースは年々少なくなっているのが現状だ。また喫煙所があったとしても完全に分煙できているとも思えない。問題はそこにある。

タバコメーカーでも自治体でもない民間企業が喫煙所事業に取り組むのは興味深いことだが、利用者にとって最大の問題は有料という点だ。既存の喫煙スペースや無料喫煙所はあるわけで、ippukuに人を集めるにはそれなりのアイデアや施設が必要となる。

筆者は淡路町店に訪れたのだが、大通りに面した20坪ほどの施設内はとても明るく清潔だ。説明どおり空調もしっかりとしており、煙臭さをまったくと言っていいほど感じなかった。衣服に臭いもつかず、実にリラックスした雰囲気で一服が楽しめる。

しかし、かつて駅構内などで展開した有料トイレのように、有料喫煙所も定着しないのではないかという不安はぬぐえない。

確かに小銭を出すのはいちいち面倒くさい。ピットかざすだけのPASMO・Suicaのような電子マネーであれば、感覚的に抵抗感なく気軽に利用できる。

小銭を出すわずかなひと手間が、行動を狭めてしまう。あるいは無料喫煙所の中には身分証明書の提示を求められる場所もあり、正直あれも意外と面倒だしプライバシーの問題も感じる。だったら駐車場の隅で……と、なってしまう気持ちもわからなくはない。そうした問題を、システムの面からもクリアしようというわけだ。

店舗内にはWiFi（1日2回まで10分間無料）と電源（無料）が完備され、パソコンで作業や、携帯の充電も可能だ。

ippukuには飲み物の自動販売機も完備されており、70円からととてもリーズナブル。飲み物の自動販売機に関しては、PASMO・Suicaのほか、iDやEdy、WAON、nanacoといった電子マネーにも対応。やはり小銭のいらずだ。

費用対効果で考えてみると、例えばこの季節、コンビニで120円支払い缶コーヒーを買って炎天下の中、駐車場の片隅で白い眼にさらされながらタバコを吸うのと、入場料50円を払いippukuに入り、70円のコーヒーを買い、クーラーの効いた店舗内でゆったとした気持ちでタバコを吸うのでは、どちらがいいか。もはや一目瞭然だ。同じ120円でも精神的余裕がまるでちがう。

分煙という意識づけはもちろんのこと、精神衛生上も、有料喫煙所の利用価値があるのかもしれない。

実際に店舗を利用した40代男性に話を聞いたところ、「室内は冷房も効いていて、ちょっと休むにはいい。まわりを気にせずタバコが吸えるので、また利用したい」と話していた。

さて今後の展開であるが、オフィス街を中心に3年で36店舗を目指すという。

社会実験とでもいうべき“有料喫煙所”の試みは、喫煙者や世間に受け入れられるのだろうか？

時代とともに変わってきた喫煙者のあり方を考える上でも興味深いところだ。